



消防通信施設の整備・更新事業について

担当の方々からのお問合せ

資料が残っていないので経緯がわからない
整備に向けて何から決めればよいかわからない
設計業務はどこまで任せればよいかわからない

整備・更新事業は計画・設計・整備の3段階

計画

対象設備(高機能指令センター/デジタル無線/付帯設備)、整備拠点、事業の全体スケジュールを定めます。設備の現状や運用上の問題点を抽出し、新システムで解決したい課題として整理します。



ポイント

- ・スケジュール(運用開始から逆算し、製造・整備、設計、構想を逆算で検討)
- ・新指令センター設置場所(建築)や電気容量(並行運用考慮)等の確認・検討
- ・指令員への既設機能に対する要望・問題点のヒアリングと整理
- ・指令システムと連動するOAシステム改修の要否 ...etc

設計

課題を整理し、整備拠点や新機能導入、ネットワーク等について検討し、機器内訳と予算要求のための概算費用を決定します(基本設計)。

次に、基本設計を基に具体的な導入機器及び実現方策について詳細検討し、発注仕様と予定価格(設計金額)を決定します(実施設計・詳細設計)。



ポイント

- ・基本設計では運用面やセキュリティについて整理
- ・実施設計ではネットワーク、可用性(冗長化)、ランニングコスト等を検討
- ・概算費用算定前には契約形態・業者決定方法を明確にしておく
- ・検討経過の確実な記録

整備

発注仕様書に基づき、受注者から提示された機器・システム設計の承諾を経て機器の製造・据付調整(工事)、システム構築を行います。

- 設計施工分離/一括によらず、機器・システムと施工(作業)計画の承諾は不可欠です。
- 保守等、稼働後のメンテナンスに関する協議・折衝は整備開始後のタイミングが適切です。

ポイント

- ・整備工程の進捗状況管理
- ・保守・中間更新を見据えた機器承諾
- ・単体、結合、総合試験による動作確認

